

□文献紹介□

COVID-19 感染症の皮膚症状の分類：スペイン全土における 375 症例から得られた見解

2019 年末に最初の症例が報告されて以降、世界的脅威となった COVID-19 感染症であるが、本感染症で出現する発疹の特徴も徐々に明らかになってきた。

本論文は 2020 年 4 月初旬に、スペインの皮膚科医らによって実施された COVID-19 感染の疑いまたは確定診断がされた患者のうち、感染 2 週間前までさかのぼって原因不明の皮疹を認めた 375 例についての分析結果である。

皮疹は大きく 5 つに分類された。1 つ目は、四肢末端の水疱や膿疱を伴う浮腫性紅斑であり、皮疹の 19% を占めた。皮疹は凍瘡様で紫斑を認め、'pseudo-chilblain' といえた。これは若年に多く、感染後期で認め、平均 12.7 日持続した。約 3 割で疼痛や瘙痒を伴った。2 つ目は、上記以外の水疱であり、9% を占めた。軀幹や四肢に時相が均一な水疱を認め、水痘で認めるような新旧混在した水疱とは異なっていた。皮疹は中年に多く、平均 10 日間持続し、15% で他の症状に先立って出現した。約 7 割で瘙痒を伴った。このほか、蕁麻疹 (19%)、麻疹様丘疹 (47%)、リベド/壊死性病変 (6%) がみられた。丘疹のうち、一部は毛包周囲性に鱗屑を伴い、ジベルばら色秕糠疹様の皮疹を呈するものもあった。リベド/壊死性病変を呈した症例では、虚血等の血管閉塞性の疾患がみられた。感染

の重症度と皮疹の関連として、'pseudo-chilblain' を呈した症例では軽症が多かったことに対し、水疱型では中等症が多く、蕁麻疹、丘疹、リベドを呈した症例では重症である傾向がみられた。

'Pseudo-chilblain' を認めた症例のほとんどで凍瘡の既往はなく、温暖な気候の時期に認めたことから COVID-19 に関連した皮疹と考えられた。この皮疹は感染後期に出現することが多いため、感染の診断としての有用性には欠けるものの、疫学的な指標にはなりえると考えられた。単相性に播種した水疱は、他のウイルス性発疹症における皮疹とも類似しており、本感染症に特徴的な所見であると考えられた。しかし、蕁麻疹や丘疹に関しては、薬疹等の可能性もあり、またリベドや壊死性病変については、サンプル数が少なく、さらなる検証が必要である。

Galván Casas C, et al: Classification of the cutaneous manifestations of COVID-19: a rapid prospective nationwide consensus study in Spain with 375 cases. Br J Dermatol PMID: 32348545
Online ahead of print, 2020

(慶應義塾大学 土屋茉莉絵)